

## 膝関節疾患に対するセラピストの役割

日時：令和2年3月8日（日曜日）10時～16時

場所：丸子中央病院2F リハビリテーション室及び大会議

膝関節疾患で手術侵襲による癒着・拘縮が起こること、その好発部位、そしてセラピストに期待する事ややるべき事について、学んでいただける機会をご用意致しました。

お互いを理解している講師2名により、手術療法と保存療法の双方のノウハウが盛り込まれ、臨床実践に役立つ内容間違いなしのアットホームな研修会となります。お気軽にご参加下さい。

内容及び講師：

講義：『各種膝関節疾患における診断・手術 -術後リハビリに必要な解剖学的な知見-』

天正恵治先生（信州大学医学部附属病院整形外科 講師）

内容：膝関節には様々な疾患そしてそれに対する手術治療が存在します。そして様々な正常組織に我々医師は傷をつけて手術を行っています。それに対して生体は様々な術後反応を起こします。これは実際にリハビリを担当するPTの方々にはイメージできない部分ではありますが、理学療法を行う上で大変重要な情報です。今回の講義では実際の手術画像を見て頂き、術後リハビリを行うPTの方々の視点に立って解説/講義したいと思います。我々がやっていることがどのような反応を術後起こしているかをイメージすることで、術後のリハビリに役立てていただければと思います。

実技：『膝関節疾患の保存療法の経験から考える疼痛対策 -可動域制限に対する徒手療法と筋力強化-』

児玉雄二先生（ATC）

内容：膝関節疾患の可動域制限は単純に屈曲と伸展のみではなく、回旋方向の動きを評価し問題があれば改善させないと可動域のみならず筋出力が不十分となり基本動作や歩行、さらにはランニングに悪影響となります。評価は制限因子を想像しつつ触診と可動域評価、筋力評価を行う、といういたってシンプルな事なのですが、見落としやすいポイントをお伝えいたします。徒手

療法では膝周囲の部位により、表層に対するもの、あるいは深層を狙うもの、手の入れ方、動かし方など具体的にお伝え致します。筋力強化については大腿四頭筋のみでなく、膝にとっての体幹や下肢筋群への刺激入れの方法をご紹介します。

膝関節に問題を抱えている方のご参加を頂ければ嬉しく思います。

時 間： 9時30分受付開始 10時00分～16時00分

10時00分～12時00分：天正先生講義、質疑応答

12時00分～13時00分：昼食

13時00分～15時50分：児玉雄二先生実技

15時50分～16時00分：総括、質疑応答、終了

参加費：8,000円（各種養成校学生は各3,000円）

対 象：理学療法士、作業療法士、柔道整復師、健康運動指導士、各種トレーナー、

定 員：30名

持ち物：動きやすい服装、昼食、バスタオルまたはヨガマット

駐車場：病院外来駐車場（建物向かって左側）をご利用ください。

※駐車料金100円かかりますが、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先：丸子中央病院リハビリテーション科 高橋啓太

e-mail: [hp-reha@maruyamakai.or.jp](mailto:hp-reha@maruyamakai.or.jp)

お問い合わせは原則的にメールのみとさせていただきます。